

式 辞

柔らかな日差しに春の訪れを感じる今日の佳き日、第74回卒業証書授与式を挙行できますことに、大きな喜びを感じております。

卒業証書を手にした12名の皆さん、卒業おめでとうございます。今日の皆さんの顔はとても輝いています。この卒業式はこれまでの集大成であり、みんなで過ごす大切な時です。万感の思いを込めて、みなさんらしいステージを創り上げましょう。

あの震災から10年、避難生活や様々な環境の移り変わりを経験し、大切な人、友達との出会いと別れがあったことでしょう。大人たちが懸命に復興に取り組む中、みなさんも協力して新たな豊間中をつくってきました。みなさんの明るい笑顔、元気な声、みなさんの存在そのものが、豊間の希望であったと思います。

さらに、昨年来のコロナウイルス感染拡大により、様々な制約を余儀なくされました。感染予防を行いながらも、できることを工夫し、ピンチをチャンスに代え、明るく生活するみなさんの姿に何度も力づけられました。

さて、卒業生のみなさんは、まさに学校の顔として様々な場面で活躍しました。学校行事や委員会活動、中体連、その他多くの活動において、真剣に取り組むことの大切さや素晴らしさをその姿を持って示しました。みなさんが記した足跡は、豊間中の伝統を築く大きな一歩になったと思います。

卒業生のみなさんで特筆すべきことは、とても仲の良い集団だということです。一例を挙げると、檜枝岐村・尾瀬への修学旅行、岩魚のつかみ取り体験の時に、なかなか捕らえられない一人のために、みんなで川の中に入って岩魚を追う姿がありました。一人の笑顔のために全員が協力する姿勢は、みなさんが創り上げてきた関係性を象徴するものだと思います。岩魚を捕らえたときの満面の笑顔、とても輝いていました。

また、よく「受験は団体戦」と言われます。一人一人の希望をかなえるには目標に向かって努力する雰囲気づくりが欠かせません。みなさんはお互いの希望や立場を理解し、学習に集中するクラスを創り上げました。それぞれが抱えている不安感を温かい雰囲気によりお互いに支え合い、活力に代えてきたことは素晴らしいと思います。

もちろん、これまでには、様々なぶつかり合いや行き違いがあったことでしょう。その度ごとに話し合い、考え、気持ちを整理して、今のクラスをつくってきたはずです。学級担任の杉本先生から、「相手の考えや気持ちを受け入れること、そして、自分の考えや気持ちを表現してわかってもらう力をつけさせたい」という想いを伺いました。みなさんは日々の生活から、「一人一人を大切にするために、同じ空間、時間を共有するために必要な人間としての力は何か」ということを学んだのだと思います。

これから皆さんは、おもしろいこと、うれしいこと、また、辛いことや悔しいことなど、様々な体験をすることでしょう。そして、それらの体験を通して行うことは「自分探し」ではないかと思います。最も感性が豊かな時に、たくさんの人に出会い、多くの感動を味わってください。そして、「自分はどのように考えるのか、何をするのか」と問い続けてください。みなさん一人一人にできることが、たくさんあります。また、あなたにしかできないこともあるはずです。これからも続く福島の復興はもとより、コロナ禍のもとであっても、世の中をつくり支える力をたくわえてください。自分を発見する長い旅の第一歩、元気に踏み出しましょう。

この豊間中学校で仲間や先生方と出会い、語り合い、元気に成長した皆さんの巣立ちを心から祝福いたします。

結びに、保護者の皆様並びに地域の皆様の多大なるご支援に感謝申し上げますとともに、卒業生の未来が輝かしいものになることを心から願い、式辞といたします。

令和3年3月12日

いわき市立豊間中学校長

